

令和7年度 弘前市総合計画審議会 議事概要（第1回）				
日 時	令和7年7月17日（木） 14時00分～15時30分			
場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0人	
出 席 者	委 員 （13人）	【会場出席（11人）】 森会長、鴻野委員、藤田委員、吉田委員、田澤委員、 太田委員、清藤委員、鈴木委員、木村委員、石岡委員、 外崎委員 【オンライン出席（2人）】 今村委員、崎野委員		
	事務局 （5人）	企画課長、企画課参事兼課長補佐、企画課総括主査、 企画課主査、企画課主事		
	その他			
会 議 概 要				
1 開 会				
2 議 事				
（1）令和7年度弘前市総合計画審議会の進め方について ○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。				
（2）弘前市総合計画リーディングプロジェクトの一次評価について ○主な質疑等の内容は以下のとおり。（「・」 委員意見、「⇒」 事務局回答）				
【評価全体】				
・資料2の2ページや18ページを見ると、インプットやアウトプットは○であるが、アウトカムの指標は△となっている／悪化傾向にある例が見受けられる。これは、取組（事業）が指標の改善に寄与していない、ということなのではないか。指標の改善に向けてどう対応するのかを、「2025年度に重点的に取り組む内容」や、「2026年度の方向性」に盛り込むべきではないか。				
⇒評価の前提となる各数値について、「基準値」というのは後期基本計画策定作業時の2022年度において取得した数値、「実績値」は2024年度の数値、「目標値」は後期基本計画最終年度の2026年度に目指す数値となっている。				
各部署においては毎年度、総合計画一次評価や次年度予算編成の過程で、目標達成に向けて取組を改善・見直しおり、引き続き、取組を進めていく。				

【リーディングプロジェクト「(1) ひとの健康」】

- ・子どもの肥満傾向の改善について、学校教育での子どもに対する取組だけでなく、保護者も巻き込んだ取組も必要だと思う。例えば、保護者が子どもと一緒に普段の食生活や運動習慣について考える機会や、顕著な取組を行う学校があればモデル校に指定して広めていくなど、具体的な取組を検討いただきたい。

⇒市では、教育委員会及び健康こども部を中心に、子どもとその保護者を対象とした食育・健康講座等の取組を進めている。引き続き、各家庭の食生活の鍵を握る保護者も巻き込んだ健康意識向上に資する取組を進めるほか、ご提案のあったモデル校指定による、より一層の取組の推進など、新たな取組についても検討していく。

- ・子どもの肥満傾向について、各家庭の経済状況も関係しているのではないかと一般的に「健康的な食事にはお金がかかる」と言われていて、経済的に余裕のない家庭に対して栄養面等でのアプローチをしても経済的に余裕がなければ健康的な食事は難しく、やみくもに行政が家庭に介入してもストレスを与えるだけだと思う。家庭環境に働きかけていくこと自体は賛成だが、各家庭の状況によってアプローチ方法が変わると思われることから、まずは分析したうえで適切な支援方法を検討していく必要があると思う。

⇒子どもの肥満については全国的な傾向であり、様々な要素が絡み合っていると考えられており、当市においてもその要因を明確に分析・特定できていないのが実情である。各家庭の状況も踏まえたアプローチ方法も検討しながら、引き続き、子どもの肥満傾向の改善に取り組んでいく。

【リーディングプロジェクト「(2) まちの健康」】

- ・定性評価の欄に、園地継承円滑化システムが好評であった旨、記載があるが、具体的な成果（マッチングが成立した件数・面積や、年齢層など）を示す記述があれば、我々も評価しやすくなる。

また、クマによる被害が多発している状況であることから、園地を継承する側、される側の両者間のトラブルや、人的被害の発生を避けるためにも、園地継承円滑化システムに、クマが出没する園地であるかどうかの情報も追加すれば、更に良いシステムになるのではないかと。

⇒園地継承円滑化システムの令和6年度実績について、樹園地のマッチング成立件数は35件、面積は21.9haとなっている。なお、定性評価の欄には、「市民等の生の声（評価）」を記載することとしているため、具体的な成果を示す数値は記載していない。

園地継承円滑化システムは、農業委員会が従来から運用してきた「農地流動化情報」にはない、水源の種類など、より踏み込んだ情報を盛り込んでいる。クマの出

没情報の盛り込みについては、いただいたご意見を農林部に伝え、今後検討していく。

【リーディングプロジェクト「(3) 미래の健康」】

- ・ 定量評価の「子どもにとって学習しやすい教育環境だと思う市民の割合」について、実績値が 36.2%となっており、年々数値が下がっているが、これはトイレの洋式化やエアコンの整備など、ハード整備が影響しているものなのか、それ以外にも何か理由があるのか。

⇒市民意識アンケートの設問は、「弘前市の子どもにとって学習しやすい教育環境（教育に関する取組や学校施設など）だと思いますか」という表現になっている。割合が年々低下している要因について、明確に把握・分析することは難しいものと認識している。アンケート結果を真摯に受け止めつつ、引き続き、子どもが学習しやすい教育環境の向上に向けて取組を進めていく。

- ・ 小・中学校のトイレ洋式化事業について、どのくらい整備が進んだのか進捗状況を数字で示してほしい。

また、防犯カメラについて、新規に整備することも良いが、スポーツ施設などの公共施設に設置済みの防犯カメラも、整備不良で稼働していないものもあるので、整備・点検を行ってほしい。

⇒教育委員会では、児童・生徒数に応じた洋式トイレの必要数（男子が 15 人につき 1 基、女子が 10 人につき 1 基）を設定し、整備を進めている。昨年度末の整備進捗率は、98.6%となっており、令和 9 年度に予定する第二中学校改築工事完了をもって整備を終了（目標値を達成）する見通しとなっている。

スポーツ施設の防犯カメラの整備・点検に関しては、健康こども部において引き続き対応を検討していく。

- ・ エアコン整備について、小・中学校や、児童館・児童センターへの整備が進んでいるが、各地区の交流センターや、各町会の集会所など、高齢者が集まる場所へのエアコン整備を検討してほしい。高齢者の居場所づくりの観点からも、高齢者が通年で活動できる環境整備を進めてほしい。

⇒各町会の集会所などへのエアコン整備に関しては、（一財）自治総合センターが行う「コミュニティ助成」を活用できるが、助成実績は、年数件にとどまっている。高齢者の居場所づくりの観点からも、福祉部、市民生活部などにおいて対応を検討していく。

(3) SDGs 未来都市としての取組状況について

○事務局からの説明に対し、委員からの質問・意見等なし。

3 閉 会